

会員の皆様へ

新型コロナウイルス感染症の拡大に対処する奈良県知事の会見は、会見後に奈良県ホームページに動画と会見資料が配信されます。けれども、字幕や文字によるサポートがありません。

奈良県中途失聴・難聴者協会のご尽力により、文字起こし文をつくることができました。内容を忠実に文字に変えてもらっていますが、マイクの調整具合などの関係で、聞き取りにくい部分があったり、話し手が、曖昧な単語を使ったり、指示語を多用したりすることで、聞こえる人でも、内容の理解がむずかしい部分もあります。

そのような部分は、文字起こし文も読みにくくなっていますが、現時点でのできる限りの対応でありますことをご了承ください。

司会／それでは新型コロナウイルス感染症対策に係る知事臨時記者会見を始めます。
本日の発表案件です。

新型コロナウイルス感染症対策奈良県緊急対処措置経過報告 8. 11、
および本日の感染者の状況につきまして荒井知事より発表をいただきます。
それではよろしくお願いをいたします。

知事／まず本日の感染者の状況は、過去最多を経験しました。
前日、前々日は多少減っていたんですけども、日のずれはあろうかと思いますが、1日の発症としては、過去最多の日になります。
その報告をさせていただいた通りです。
そのような状況の中で、経過報告をさせていただくわけでございます。

2 ページ

資料の説明に入りたいと思います。
本日の経過報告でございますが、三つのパートにわかれます。
感染状況と防止対策、医療の強化対策、ワクチン接種の早期展開対策でございます。

4 ページ

感染状況と防止対策についての結果報告。
5波と言ってもいいような状況で、4波と同様の状況です。
お盆の時期にかかる。このような時期が正念場だというふうに思っています。

5 ページ

県内の地域ごとの分析を従来からもしていますが、違うやり方でまた（分析を）。
奈良市と郡山保健所管内、郡山・天理・生駒市・生駒郡が郡山保健所管内ですけれども、7月中旬以降は同じような傾向で感染者が伸びております。
特記されるような上昇傾向はありませんが、しいて言えば、最近では生駒郡が伸びている。
葛城とか王寺辺りです。葛城いや失礼、斑鳩辺りです。

6 ページ

中和保健所の主な市では、橿原市の8月に入ってからの増加が著しい。

クラスターの発生が報告されております。
香芝においてもクラスターが報告されております。
それを除きますと、同じような傾向が続いております。

7 ページ

特に主要な市における最近の感染状況。

奈良市、生駒市、橿原市の3市について、7月26日から8月6日まで約10日間の調査をいたしました。
感染経路の確定ということではありませんが、推計ができ推定ができるところがございます。
それで、その中で、奈良市もそうなんですが、生駒市、橿原市が奈良県外での行動歴のある人が多い状況と
思われます。
これは1次感染と考えられますが、1次感染から2次感染以降に移るのが、大都市周辺の地域の特徴です。
1次感染が減りますと、全体としては減るんですけども、その域内での感染の2次感染以降の割合が増える
状況になります。
奈良市、生駒市、橿原市の一次感染の状況です。

8 ページ

クラスターの発生が増えております。
8月10、11日、昨日今日の発生で、6件ございます。
病院が生駒市で1件、事業所は3件、飲食店が2件ということでございます。
クラスターの発生も感染者数が大きく伸びる要因になっております。
この要因の調査を見てみますと、マスクをしていないとか、間隔が狭いとかいうように、
細心の注意を払っていただいていると、(クラスターに)ならないケースがあろうかと思えます。
時、既に遅しのクラスター発生と思えます。

9 ページ

クラスター発生のケースの改めての注意。
細心の注意をしていけば、クラスターは発生しませんよ、基本を守っていただきますと、発生しませんよと
いうことを改めてお願いを申し上げたいと思えます。
発生いたしますと、しまったと思って注意をされますので、同じ場所では二度と発生しないというのが
奈良県のケースであります。
発生する前、見えない敵でございますので、油断ということがあろうかと思えますけれども、クラスターが
発生することがこのように、起こります。
基本となるのは感染を持ち込まないこと。
持ち込む人は、自分ではわからないわけでございますが、体調不良のときには出勤しないように、あるいは
させないようにしてください。
そこから感染予防対策をしている事業者では感染者がおられても、クラスターにならないケースがござい
ます。
そういう事例がございましたので、感染予防徹底されている事業所事務所では、クラスターにならなかった
ケースもわかっております。
ご注意の内容によるというふうに思えます。

10 ページ

事業所での、クラスター対策でございますが、持ち込まないのが一番でございますが、持ち込まれた場合でも、マスクの着用を徹底するとか、マスクを外しての飲食や会話を避けていただきますと、その事業所ではクラスターが発生していないという事例がわかります。飲食店のクラスター対策でございますけれども、やはり先ほどの事例でありますように、マスクを着用していないとか、席が近いあるいは大声での会話をされるというような、言ってみれば当然のようなことが、ちょっと不注意でされてないということが事例としてはございます。注意を続けるのはなかなか大変でございますけれども、注意をすれば確実に防止できるということがわかってきておりますので、ぜひこのようなご注意を、神経質になってでもしていただければと思います。

11 ページ

飲食店での感染防止は、長時間滞在して、感染の機会を与えない。マスク着用する。設備面で防止環境を十分にするといったような、当然のことでございますが、このような対策を講じておられるところでは発生をしておりません。全店発生するということでございませぬので、お願いを改めて申し上げたいと思います。

12 ページ

変異株・デルタ株の調査を続けております。前回出しましたのは、8月1日までのデータでございますが、2日から8日までのデータでは、デルタ株疑いが大きく伸びているのはわかります。これは大変危険な状況でございます。デルタ株の感染力の強さによって、今、日本全体の感染が爆発している面もございませぬ。奈良県でも、このデルタ株の割合がこのようになるのは危険な兆候だと思っております。一層の注意が必要だと思っております。

13 ページ

大阪府と東京都のデルタ株疑いの様子でございます。奈良県のケースと、時点が1週間から2週間ちょっと遡っております。データの集め方の違いで。大阪府も、7月25日まででございます。奈良の場合も同じ時期、前ページでございますが、比べていただきますと、ほとんどデルタ株疑いはございませぬ。その後2週間で大きくデルタ株疑いが、奈良県の場合は出てまいりました。大阪府は、これから情報が出ると思いますが、どのようになるか心配をしております。東京都も7月25日までのデータしか、奈良県の手持ちでは、ありませんが、東京都の場合はすでにデルタ株疑いが、大きく約半分以上のシェアを占めております。

14 ページ

飲食店の時短要請の効果でございます。奈良県において前回の4波のときに時短要請された市町と、されなかった市町村が分かれました。それを同時期の減少率を比較検討しますと、時間要請をされた市では、同時期-84.2%、実施しなかった

市町村では-76.4%、一応どちらも8割強か8割弱と、いうことでございます。

決定的な差とまではいかないのではないかと思います。

あと奈良県のこの現象あるいは増高に影響のあるのは、大阪市との距離の近さ・交通量の多さということでございます。

この時短要請のみの効果は測りにくいですが、総じてわかる資料がありますと、このような結果でございます。

15 ページ

奈良市独自の時短協力が、開始されます。

11日から24日までの期間中に、時短の要請をされるということでございます。

奈良県は効果があれば、お付き合いしますよと言っておりました。

今の14ページ目の表のように、時短要請の効果はあまり見られないと思います。

その前の各市町村、最近の増高を見ても、15ページの表のように、奈良市だけが大きく突出して感染者が増高しているわけでもございませんので、そのようなことを勘案しまして、協力金の上乗せは今回はいたしません。

ただ、効果が事後的にでも確認できた場合には、県から市への財政支援を検討したいと思います。

16 ページ

医療の強化でございます。

今、全体の感染爆発の中で、感染爆発を収める手立てはない。

国でも地方においても言われておりますが、感染された方を受け入れる医療体制は、基本的に知事、地方の責任になっております。

奈良県では医療対策の強化に努めてまいりました。

その様子も経過報告で報告したいと思います。

17 ページ

一つ目は重症対応病床でございます。

34床をずっと確保しておりますが、占有率は、29%、10名の重症対応。

重症患者がおられます。

これまでは全ての重症患者を重症対応病床で治療することができておる状況でございます。

18 ページ

その担当の病院でございます。

19 ページ

重症病床の占有状況の波の表でございます。

20 ページ

重症化予防の対応でございます。

自宅での入院入所待機者、あるいは自宅療養者、また宿泊療養施設であっても、重症化予防の配慮をしておりますが、引き続き重症化の予防に措置をとっていきたいと思います。

具体的には、入院入所待機者・自宅療養者にはパルスオキシメーターという酸素を測る機械を貸し出しております。

宿泊療養施設に入っていただきますと、医師看護師が詰めておりますけれども、急変される場合には、医療機関に搬送できるよう、総合医療センターに応急病室を整備しております。
とにかくそこには入院の予約なしでも運び入れることが可能でございます。
また、宿泊療養施設で酸素投与を可能にしております。
重症化予防には引き続き力を入れていきたいと思っております。

21 ページ、22 ページ

入院病床の状況でございますが、448 床の確保をしておりましたが、先日通常医療のために、運用病床を確保することで 71 床を通常医療に回しました。最近少し戻しまして、412 床まで戻しております。
順次運用を再開しておるわけでございますが、この 13 日には 448 床の確保病床をフルに運用することにしたいと思っております。
現在の 412 床に対しまして、現在の入院患者数 254 名でございます。
占有率は 62%ということになっております。
これまで奈良県では、入院加療が必要な方は全て入院していただくことができっております。

23 ページ

提供医療機関でございます。
県立系の病院が、52%を占めております。

24 ページ

占有状況の推移でございます。

25 ページ

宿泊療養施設の状況でございます。
現在 6 施設 711 室の提供でございます。
入所室数は現在 331 になっておりまして、占有率は 47%まで上がってきております。

26 ページ

その運用室の状況。

27 ページ

占有状況の推移でございます。

28 ページ

入院待機者あるいは自宅療養者の状況でございます。
自宅療養の方は、16 名おられますが、全て入院拒否者の方です。
また、待機中というのは、どの病院に行くか、自宅との距離、あるいはご家族の状況などを調整したり、ご準備されるのに、必要なのは 1 日ないし 2 日要るということで、2 日までおられる方は、自宅待機者という欄で、その方も 137 名で増えてきております。

29 ページ

自宅療養中の方は、3日以上おられる方という定義でございますが、16名おられますが、全員が入院、入所の拒否者でございます。

3日以上おられる、自宅療養者という定義に当たる人は、ずっとゼロ状況でございますので、奈良県では引き続き自宅療養者ゼロを堅持していきたいと考えております。

30 ページ

入院入所拒否の理由でございます。

家族全員で自宅療養したいという方、また世話が必要なご家族がおられる、あるいは自営業で、在宅で勤務仕事をするといったような方がおられますので、このようなご家族、あるいは仕事の関係を崩してまではできませんので、一応拒否者として、自宅の療養ということにさせていただいております。

31 ページ

これまで自宅待機者や、自宅療養者が増えた時期がございます。

定義上、3日以降の入院入所、黄色に当たるところでございます。

このような分析をいたしますと、この黄色の欄が増えておりますのは、4月1日から30日。

5月1日から5月31日。

累計でございますが、4月、5月には自宅療養者がこのように増えた時期がございますが、現在では実質ゼロの状況であったという振り返りでございます。

32 ページ

先ほど自宅での入院入所待機者療養者に対する健康管理で、パルスオキシメーター貸し出しについて申し上げました。

ICTを活用した健康状態の確認と、看護師が電話対応する相談は、従来からやっております。

お盆に入りまして、連絡がつかないで、ご自身でご心配される方もありますので、ここに書いてありますように、0742-27-1132にお電話いただきますと、平日・祝日を問わず24時間対応しておりますので、どうぞご連絡してください。

35 ページ

最後にワクチン接種でございます。

ワクチン接種と感染の発生ということを前回から調べておりますが、接種率と感染リスクの相関関係は、前は確か0.64でございましたが、今回は、相関係数は0.71ということで、相関度が上がってきております。

具体的な場所・市でございますが、左の方の市が、接種率の低いところでございます。

接種率の低い市と町は、香芝・橿原・高田、広陵とありますが、香芝・橿原の方は、全体よりも感染率は高い状況でございます。

高田・広陵は低い状況でございます。

その次の欄、全年代の1回目の接種率が4割台の市を書いています。

奈良市もその中に入ります。

感染率の高いのは、この縦のラインでございます。

王寺・三郷あるいは郡山・生駒の方が奈良市よりも高い状況でございます。

この具体的な名前は右の欄に書いてございますが、奈良市・葛城市は、感染率は同じ。

ワクチン接種の低い方の中では、感染率は低い方だということでございます。

36 ページ

65歳未満の接種率と感染者の関係を調べております。

ここも、65歳あるいは60歳未満の感染者数、接種率の中で、奈良市・葛城市・高田市は、同じ接種率群の中では、感染者の割合が低い方でございますが、香芝・三郷・橿原・郡山のような市は程度の差はございますが、感染者率が高い状況でございます。

ワクチン接種の状況と65歳未満の感染者の相関係数ですが、0.63ということでございます。

これも接種が上がってくると、相関係数が上がってくると思います。

0.63でも相当な相関だと思えます。

37 ページ

ワクチン接種の状況でございます。

65歳未満で2回目接種は10%ということでございますが、全年代合わせますと、2回目接種は3分の1まで参ります。

毎日たくさんのショットを打っていただきまして、10月末ぐらいまでに全年代、全接種いうことを目標にして、頑張っていきたいと思えます。

38 ページ

全年代のワクチン1回目2回目の接種済み者の状況でございます。

右の方になりますと、上北山・野迫川村などの小さな村では、8割を超えるまでになってまいりました。また市におきまして、宇陀市でも48%ということで、右欄の一番上でございますが、まだ5割までいかないということございました。

2回目の接種率は高田市で3割でございます。

これが、全体として5割、6割ということになればと思っております。

39 ページ

市町村別の全年代のワクチン接種率の状況でございます。

当初、差がわりとあったんですけども、差が縮まってきているような気もいたします。

これが全体として上がってくると、ずいぶん違ってくると思えます。

40 ページ

そのグラフでございます。

41 ページ

8月11日時点での経過報告でございます。

感染者過去最多を計上した8月11日でございます。

くり返しになりますが、感染者の動向を直接押さえ込むのは、なかなか国でもできない状況でございますけれど、なるべく静かに、感染する状況を作らないようにするということができないと思われま。

辛抱は要ると思えますけれども、県民の方に改めてお願いをする次第でございます。

感染された場合には、医療の提供がないと心配でございます。

奈良県では入院加療の必要な方には、これまでは漏れなく医療を提供しております。

引き続き、1人残らず、入院または宿泊療養していただけますように、努めていきたいと思っております。

三つ目はワクチン接種。

申し上げましたように、ワクチン接種が進むと、感染率が低下する相関係数があるということがわかってきております。

ワクチン接種をできるだけ進めて、感染者の発生の抑制に努めたいと思っております。

ワクチン接種率の向上と、デルタ株のまん延の競争のようになっていると思っておりますが、今申し上げましたようなことで、県では精一杯努めていきたいと思っております。

このお盆の時期、できるだけ身の回りの用心をしていただいて、家族の皆さんは、共々感染しないように、気をつけていただければありがたいと思っております。

私からの本日の経過報告は以上です。

司会／ありがとうございました。

それでは質疑に移らせていただきたいと思います。

本日のご質問は緊急対処措置経過報告、コロナ対策の関係でお願いしたいと思います。

ご質問のございます方は挙手にてお願いをいたします。

奈良テレビ／ニシムラです。

今日の発表の新規感染者の数が142人ということで、これまでの最多が4月第4波の時に120人台だったと思うんですけども、その時より20人ほど多くなっている。

クラスターも複数確認されていると思うが、知事として、今のこの感染状況の受けとめというのはどういったものか。

知事／142というのが、続かないようにと。

前日・前々日が少なくなった反動というわけでもないが、明日・明後日を見ている。

これが続くのか、また波打つのか。

週平均とか、2、3日の平均とかの統計も出している。

1日だけの最高で判断しないようにしたい。

この過去最多を更新しないよう願っている。

明日になってみないとわからないところがある。

どのように波が移るかは、休みのときの判断の量とか、いろんなことが関係していると言われる。

月曜日は増えるよ、日曜日は少ないよって言われたのが、だんだん崩れてきている東京のケースなんかがある。

奈良県の場合はまだよくわからないところがある。

前日・前々日、月・火が他県と比べて少なかったということもあり、これでちょっと正直ほっとしたところがある。

県でも波打ちます。

少ないからといって安心しない、過去最高だからといって、驚かないようにしたいと思う。

記者／ありがとうございます。

また、お盆を前にして用心するというメッセージがあったと思う。

県民に具体的に、こういう行動しましょうというメッセージとか呼び掛けは何かありますか。

知事／繰り返しになるが、奈良県の基本的なパターンは、一次感染。

最近、大阪に行って(うつされた)奈良市・生駒市・橿原市の状況は7ページのようになっている。

油断した訳ではないと思うが、県外での行動歴ありのケースがある。

従来のパターンで行動されているように思う。

大阪に行つてうつされる1次感染は奈良県のパターンです。

調査をすると、東京の調査では、自分はどうつらないと思っている方が特に20、30、40歳代は圧倒的。

奈良県でも同じではないかと推察する。

しかしそういうわけではない、気をつけてくださいね。

特にうつるパターンは、大阪に行つてうつされて帰ってきて家族にうつす。

うつされた家族が、またうつすということ。

お盆の時期のメリットは、わずか数日かもしれないが、勤務がお盆休みになること。

わざわざ大阪に行って、遊ぶことのないようにというのが、具体的な注意の一つです。

1次感染がないと、ご家族へ2次感染しない。

安全なところが奈良県は多いですから、ご家族で奈良県のいろんなところで楽しんでいただくことをお勧めしたい。

奈良県は暑いし、海辺はありませんが。

涼しい、環境の良いところは密集するので、静かに工夫をして。

暑いのでお出かけをすすめるわけではないが、涼しくなった夕方とか朝は近くを散歩する時間だと思う。

ぜひ違う生活パターンを工夫してと、お願いしたい。

記者／お盆で帰省とかされる方も多いと思いますが、できる限り大阪とか感染が広がっているところではなく、県内で過ごしてほしいというお願いということですか。

知事／お盆の行動は難しいですね。

もっと遠くの田舎に行く方もおられると思う。

大阪がふるさとという方もおられると思う。

たまたま大阪が今増えているから危ないといっても、いやうちは大丈夫、実家に帰るのは大丈夫だと思われるのが普通だと思う。

これもおすすめするとか、行っちゃいかんというわけにはいかない。

くれぐれも用心してと、お願いするしかないと思う。

また帰って来る方もおられると思う。

両親が高齢だから、とにかく心配だと帰って来る人が多いと思う。

その場合も帰ってきちゃいかんと、なかなか言えない面もあると思う。

外国では移動の自由・憲法の自由を制限するのとか、政治的な行動にもなるぐらいだ。

(外国でも)禁止・お願いをしている。

私は、気をつけて、マスクをして、人の前に立たないようにすれば、ずいぶん違うと思う。

ぜひ、動く場合でも気をつけていただくよう、くれぐれもお願いをしたい。

関西テレビ／タニグチです。

奈良市の時短要請の協力金の件について。

奈良市が県にまん延防止重点措置の要請を求めていたと思う。

効果が確認できないということで、確認できれば財政支援を検討とのことでした。

奈良市が時短要請していることに関して、知事としてはどう思われていますか。

知事／かねてから、まん延防止をやりなさいとおっしゃっている。

以前は時短要請されるたびに、財政的な面で付き合った。

手を上げられたときに付き合った。

先ほど顕著な効果はないように思えると言ったが、今度も、正直言ってまん延防止の効果があるのかなど、思っている。

やってみなきゃわからないじゃないかと言われることはある。

一つは、世の中の人はこちらを思っておられるんだなという意味で言う。

昨日 NHK の世論調査があった。

菅さんの支持・不支持の調査が中心だが、その中に緊急事態宣言・まん延防止重点措置にどの程度効果があるかという質問が入っている。

たまたまテレビ観ていたら、ピッと焦点が合ってしまった。

世論調査の結果、(緊急事態)宣言・まん延防止の効果は、あまりない49%、全くない20%。

だから緊急事態宣言・まん延防止は、自粛してくださいというお願い要請の宣言だが、受け取る人が、効果がないと思っている。

7割が効果がないと思っておられると、やっぱり行動が伴わないと思う。

これは政党との関係もあって、放送されなかったが記事をとると、(効果が)あまりないと言われるのは与党でも6割、野党になると8割。

与野党の支持率の差、政治の差でも判断が違うということも留意しなきゃいけないが、全体としては7割が、効果がないと言っているのが世論の傾向だ。

世論にお願いをして、感染を止めるという手法であります。

なかなか、難しく、余計難しくなっているのかなという印象が一つ。

もう一つは、9日に、西村大臣と緊急事態宣言した6都府県の知事さんとの会談があったと報道された。

その中で神奈川の黒岩知事が、一度、根本に立ち戻って考えるべきではないか、今やっている飲食店への対策だけでは効かなくなっているのではないかと発言された。

緊急事態宣言・まん延防止を経験された知事さんでも、その効果について、また飲食店特化について、このような冷めた見方されるのは、私にとっては印象的だった。

なかなか難しい状況で、どうすればいいのかわからない状況。

奈良市も効果があると思ってやっている面があると思う。

まん延防止は時短だけじゃなしに、お酒の自粛とかカラオケの自粛とかも、要請することになっている。

その要請があって国が補助を出すことになっている。

奈良市の場合は時短要請だけだ。

期間が他の県より短いということなので、私は元から効果のほどはどうかと、正直思っている。

効果がありましたと言われたら、後追いでも、国からの補助はないが、何かの方法で、県独自の財政支援措置を考えてもいい。

制度的な裏付けはないが、頑張っているところには応援したいと思う。

効果のないところに、お付き合いするところまでなかなか気が進んでいかない。

他に効果があるのかというと、国においてもいろんな県においても、なかなか感染防止に関して効果がない状況だ。

シャットダウン・ロックダウンのような、厳しい強制的行動制限をすべきかどうかという議論がある。

法律改正あるいは憲法問題が関わってくる。

イギリスの場合、ロックダウン・シャットダウンと、ワクチンの早期接種と医療提供をかみ合わせてしている。

早くワクチン接種をした人は、感染力が抑制されているのが事実。

イギリスのように経済が早く復旧するのが見られる。

日本の場合、ワクチンとの勝負と思われる。

感染抑止の決め手がなかなかない状況だ。

お盆を利用して、ぜひ感染が拡大・継続しないようお願い申し上げたい。

記者／ありがとうございます。

効果があった場合も、まん延防止重点措置を要請せずに、県の独自の支援をされるということですが、効果があっても要請しないのはどうしてですか。

どういう場合には要請されるおつもりですか。

知事／効果があれば要請する。

まん延も緊急事態(宣言)も、大都市の飲食店特化の抑制。

ベッドタウンに飲食店街と言われるほどのものが、あんまりない。

今まで5名以上のクラスター感染が発生したり、1、2名でも飲食店の感染が発生した。

繁華街でポツポツと発生した。

奈良の場合でも、富雄で発生して、奈良市内で発生して、南で発生して、ポツンポツンとわかれて発生しているのが調査でわかっている。

飲食店の時短要請・酒類提供停止という大都市では効きそうなのは、なかなか効かないのではないかと。

まん延防止は市町村ごとにされるが、カラオケは自粛要請をお願いしている。

酒類提供の自粛要請はしていない。

奈良市も郡山市も、割引券はまだ提供されていて、有効なんですね。

飲みに行ったり、食べに行ったりはできる。

それが今度時短をするからとなっている。

ブレーキとアクセル、両方を踏まれている感じがする。

両方踏んで感染が抑止されたら、それに越したことはない。

ベッドタウンでも、感染拡大防止にまん延防止でも緊急事態(宣言)でも効果があれば、やるのにやぶさかではない。

最初から効果があることはしますよと申し上げている。

それと、緊急事態宣言は、全県(対象)なんですよ。

休業要請とか時短とか、大阪に近いところは随分増える。

大阪から離れている宇陀市・桜井市とかで、飲食店クラスターはポツンポツンと発生するが、大阪の影響が薄い。

緊急事態宣言の特徴だが、(影響が)薄いところと高いところがあり、ちょっと、適用を憚られる。

経済への影響が大きい。

まん延防止も、滋賀県でも、京都市でも(やった)。

京都市は繁華街がある。

緊急事態宣言では舞鶴とか木津川市も全部休業要請した。

あれは本当に効果があったのかなとまだ疑っている。

知事会では、緊急事態宣言・まん延防止の効果検証をしてください。

専門家の方々、お国のみなさまと、何度も叫んでおります。

エビデンスが出てまいりません。

その中で先ほど、NHKの世論調査で、エビデンスを出さないと信用されないんじゃないかなという結果が出て、それが菅さんの評価に繋がってるような報道があった。

何かいい手がありましたら、効果がありましたら、それに飛びつく所存です。

効果はないが、飛びつけと言われても、責任上(できない)。

戦争に例えると、「敵はいないが弾があるから撃て。」

「いや、司令官、敵はいない。敵のいるところを教えてください。私、撃ちますから。」

「そうだな、ちょっと待て」と、こう言われてるような感じがある。

例えば、あまりよくないかもしれない。

どこに弾を撃てば感染症抑止に効くのかは、世界中がなかなかわからない。

緊急事態宣言・まん延防止をやっていれば効くといっても、あまり効かなかった。

じゃあどうすればいいのか、なかなかわからないので、批判ばかりできない。

上から追押しろと言われて、二の足を踏む状況だったことを申し上げる。

くどくどと申し訳ありません。

記者／とはいえ今日の感染者数が最多で、これから一番のお盆のシーズンを迎える。

先ほど言われたのを引用すると、敵がいる可能性はかなり高いと思うが、それでもあくまでもエビデンスがなければ、要請しない？

呼びかけでのお願いということですね。

知事／もう一つね、知事会でも知事さんが、ささやくわけですよ。

まん延防止効かないけど、国がお金出すからやるんだよ、みたいなこと。

そういうことならやめとけよと私は思う。

お金を出したらお金をもらって、配るよと。

選挙の前ならともかく、基本的に政治家はすべきじゃないと私は思う。

効果があればやるのに全くやぶさかではない。

可能性があるかどうかわからないのに、あそこに敵がいるから撃てというのは負け戦の典型だ。

これだけ何度もやってるのにと、私は思う。

記者／特にその効果について、いつまでに奈良市からの報告をお願いしているとかそういうことはないか？

知事／効果があると言ってこられたら。

効果があるから、助ける、財政的な支援しろと言われてたら、後追いでも(する)。

効果があるやり方がわかれば、次はそういうやり方でしょうということまでいくと思う。

今まで効果検証をした人が誰もいない。

一緒にやれよといわれても。

この水に浸かったら、息が楽になるよ、そういうわけでもない。

みんながやっているからやろう、みんながやれば怖くないとそれが一番いかんことだと私は思う。

記者／わかりました。ありがとうございます。

毎日新聞／ニシノです。

奈良市の効果が確認できた場合には、財政支援を検討するということか。

効果を確認するのは、奈良市が自分のところでやれということですね。

知事／効果があると思ってされているので、ぜひ教えてください。

記者／知事としては効果が今のところなかなか確認できていないが、もし効果が確認できた場合には、奈良市が効果を確認して示してこいということか？

知事／普通はそうじゃないか。

こちらではわかりませんので、わかればこちらもするが。

わからないから効果があったことを、言っていたらわかりやすいと思う。

記者／それと専用病床。

8月13日には448に戻すということだが、さらに感染者が増えた場合には、448よりさらに増やすように知事として要請するお考えはあるか。

知事／今行われている議論は、病院が圧迫するから感染者を抑制するというのと、感染者が出ても自宅で待機・自宅療養しなさい、この二つが出てきている。

感染者を抑制する手がない状況で、他の国でやっているのは、とにかく入院をして、隔離もあるが、とにかく酸素を入れないと駄目だということ。

酸素を入れて重症化予防をすることを何とでも、していきたいと思う。

今の状況は、酸素を入れる中等症の患者数は、入院病床よりもずっと少ない状況で動いている。

だから入院病床を増やすという前に、宿泊療養を増やす。

大都市でも自宅療養の前に宿泊療養を増やし、そこで酸素の提供、あるいは経過観察をすることで、ずいぶん安全だと思う。

自宅療養の前に(宿泊療養を)やる、知事の責任があると私は思っている。

今の入院と宿泊療養の占有状況だが、140名がどんどん毎日進んでいくと、あっという間に、入院病床も宿泊療養も埋まっていく。

経過を見て、軽症が多いということで、宿泊療養の方が通常医療を圧迫しないというメリットがあるので、そちら(宿泊療養)を増やす。

重症病床がいっぱいになるのを一番恐れていた。

いっぱいになりかけたときがあったが、幸い今、重症患者は比較的少なくなっている。

若者が重症にならないと思われる原因にもなっている。

重症病床が一番大事だが、比較的まだ緩いと認識している。

しかし、重症が増えてくると油断できないとは思っている。

それとともに今、クボさんが言われたように入院病床と宿泊療養。

軽症が多いが、中等症になると、宿泊療養で酸素供与というの、今やれるところまで来ている。

宿泊療養でも中等症でも転院する、入院するまでに酸素が必要になるとそこで、酸素供与する仕組みにしている。

中等症になっても、軽症のまま退院・退出される方が圧倒的に多い。

自宅よりも遥かに安全であります。

増えてきたら宿泊療養を考えて、その次に入院。

正直、入院のキャパは本当にギリギリです。

これ以上ないかと言われたら、いざとなれば、ご無理をお願いせないかん。

一時でもお願いしないと思っている。

まず宿泊療養、それから病院。

病院が今いっぱい、ギリギリで頑張っていることは何度も会話してわかっている。

できれば宿泊療養で、軽症の患者を受けることができたらいいと思っている。

記者／それとデルタ株だが、直近のスクリーニング検査では、56%ほどまでデルタ株の疑いがあるということ、奈良でもどんどん置きかわりが進んでいると、知事自身は考えていらっしゃるか。

知事／デルタ株の資料は12ページにある。

東京・大阪の資料は7月25日まで。

特に大阪は7月25日まではデルタ株はあまり発生していないと思われる。

奈良県の場合、8月にこの資料を出すと、特に8月2日、8日の資料は跳ね上がっている。

予想はしていたが、正直びっくりした。

デルタ株は必ず出てくる、デルタ株の洗礼を受けないと、なかなか次の収まりがつかないと思っている。

デルタ株の洗礼を受けた後、収まるかどうか勝負だと思っている。

デルタ株にも、ワクチンは効くと言われている。

デルタ株を抑えるワクチン接種との勝負だと思っている。

だから抑えきれない大都市に、ワクチンを優先配散するのも、私は正しい方向かと思えますけれども。

奈良県でも、ワクチンの接種をとにかく早く進めて、デルタ株がうろうろしても、撃退できるようなワクチン接種率まで早くこぎつけたい。

今必死でそれを思っている。

記者／もう一点だけ。

先ほどお盆のことが出ましたが、知事は、お盆休みは今年も県内で過ごされるか？

知事／自宅です。

記者／大和郡山のご自宅で？

知事／自宅です。

記者／というご予定ですか？

知事／いろんな勉強材料を持って帰っていますので。

司会／その他ご質問いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは本日の知事臨時記者会見をこれで終了します。

ありがとうございました。